



MORIOKA

ROTARY CLUB WEEKLY

第26回例会(2月16日)

平成30年2月23日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10

会 長 飯塚 肇

川徳デパート内

幹 事 星 克彦

例 会 場 同上 TEL 019(651)1111(代)

会 報 伴 亨

例 会 日 毎週金曜日12時30分～

クラブ事務局 TEL 019(653)5682

<http://www.morioka-rc.jp/>

FAX 019(653)5622

RI会長テーマ ROTARY: MAKING A DIFFERENCE. 'ロータリー:変化をもたらす'... イアン H.S. ライズリー
盛岡RC会長テーマ —もう一度、奉仕— 飯塚 肇

会員卓話

『地域の慣習を重んじる』



(株)駒木葬祭 代表取締役社長

駒木 進 君

葬儀屋としての出発

弊社創業者の駒木松五郎は、幕末から明治初期、土葬が一般的だったこの時代、棺桶に遺体を入れたあと、町内の若衆が墓場まで担ぎ埋葬するのが通例の儀式を取り仕切っていました。ほどなく葬儀屋として本格的に取り組んだのは2代目若松で、明治10年に「商い」として確立しました。当時、葬儀を商売として行っていたのは全国的にも数えるほどだったといいます。弊社として歴史的に特筆する葬儀の施行は、何と言っても大正10年11月4日、東京駅丸の内南口で暴漢によって暗殺された平民宰相原敬の葬儀です。盛岡での葬儀を仕切ったのは、2代目若松と3代目孫次郎でした。2人は盛岡駅で原敬の遺体を迎え、雨の中、400メートルにも及ぶ葬列とともに原敬の菩提寺である大慈寺へと向かい、しめやかにそして厳かに葬儀は執り行われました。

4代目である父悦郎は昭和15年から終戦まで出征していたため、戦時中は家族と番頭で店を切り盛りしていました。終戦となり帰郷した悦郎は一時、敗戦で多くの戦友と死別した虚脱感の中にいましたが、一念発起、県内初の霊柩車を導入、岩手県葬祭業協同組合を設立、のちに全日本葬祭業協同組合連合会(全葬連)の副会長も務めました。8年前に他界しましたが、今思えば仕事以外の話をもっと聞きたかったと、多少なりとも悔やんでおります。

私は大学卒業と同時に家業に入るものとはばかり思っていたのですが、大学4年の秋に父から思いがけない1通の手紙が届きました。手紙には、「今は家業にお前を必要としていない、自力で他の仕

事で飯を食え」と書かれていたのです。それはまさに青天の霹靂、就職活動をしていない私は、あわてて先輩にお願いし、運よく金融機関に就職できました。そこで4年勤務した後、株式会社に法人化すると同時に家業に就きました。父の助言もあり、はじめは京都の大手葬儀社に修行に入りました。その会社は、施行件数、従業員数、売上高すべて弊社の10倍の規模でした。私なりにいろいろ学んでは来たものの、弊社に数人いた従業員はどちらかというと人夫といった体質が色濃く残っているなど、大手と地方の中小企業との違いに戸惑い、手法を導入するには結構面喰いしましたが、見聞を広めることが出来たと思っております。

会館ブーム

時は流れて、平成8年、私が5代目の社長に就任し最初に手掛けた事業は、九州と北海道が先駆けとなった葬祭会館事業で、本社近くに県内初の通夜会場を建設しました。当時は疑心暗鬼で見切り発車的に作りしましたが、利用客が予想以上にあり、全国的にも広がりを見せるなか、県内でもこれを機に同業他社が競って建設、現在に至っております。

2店目の会館建設はかなり後手を引きました。ご承知の通り、盛岡には2カ所の寺院群があり、ひとつは弊社の本社がある大慈寺町周辺の寺の下寺院群、それと北山の寺院群です。2店目は場所にこだわり北山界限と決めていました。火葬場の至近距離にあり使い勝手のある会館だと思っております。一度見学にいらしてください。

弊社の会館に対するコンセプトは、あくまでも通夜に使用する目的であり、お客様には寺院葬を

薦めております。御本尊のある本堂での葬儀は、それなりに意味を持つものであり、厳かな儀式になります。寺院葬という昔から地域に根ざした先祖を敬う慣習を伝承することで、故人を偲び長くとどめるような葬儀ができればと思っております。

諸行無常 諸法無我

諸行無常—仏教用語で万物は移り変わるもので、全ては変化の過程にあり一つとして恒久なるものなどないということですが、会社経営的には、その時代の流れやニーズをその都度的確に捉え、情報収集し、決断、実行しなければなりません。そして、これを素早くできる経営者が未来永劫、存続する会社を作り上げるものだと確信しております。

諸法無我—これも仏教用語で全てのものが「かわり」あって存続しているという意味ですが、近頃「家族葬」ということばが独り歩きしています。私はお客様に人生 80 年、90 年の間、親族近隣、友人、知人、たくさんの人とかかわった人生です。普通で送ってあげたらいかがですかと、必ず提言させていただきます。費用をかけることは、まったく意味合いが違います。そしてやがて大半の方は私のことばに納得してくれます。有難いことです。これからも提言し続けていきたいと思っております。

「生き生きセミナー」

弊社では、葬儀社としてだけでなく、お客様

のニーズに対応しつつも一歩先を行く盛岡の企業として、社会へ様々な情報を提供・発信する、ということを主旨に、地域の皆様を対象に「生き生きセミナー」を開催しております。主軸となるテーマは、超高齢化・核家族社会の中で安心した最期を迎えるヒント「いかに明るく死を迎えるか」です。

平成 25 年に開始し、既に 14 回を数えましたが、毎回盛岡グランドホテルを会場に開催しております。レギュラーでお願いしているお寺の住職と人気アナウンサーのお 2 人には筆舌に尽くし難いほどの心からの感謝の念を抱いております。そして毎回ゲストとして趣旨に沿ったタイムリーな方をお招きし、それぞれにご講演をいただいております。ご講演のあとには葬儀に関することや、素朴な疑問にも答える対談など、毎回好評をいただいております。いつも 200 名ほどの皆様の参加があります。これからもごく小さなことではありますが、社会貢献のひとつとしてとらえ、続けたいと思っております。一度いらしてみませんか。

最後に私の早朝のルーティンをご紹介します。朝 5 時に起床し、先ずは神棚に拝礼、「今日 1 日朗らかに、安らかに、喜んで、進んで働きます」と誓います。つぎに仏壇の前で「般若心経」「大悲心陀羅尼」「舍利礼文」を唱えます。それから墓前に赴き「舍利礼文」を 3 回唱え先亡諸精霊に挨拶致します。ご先祖さまに感謝、感謝!!

例会報告

第 26 回例会
平成 30 年 2 月 16 日(金)

12時30分 開会点鐘

- ・司会 飯塚 肇会長
- ・ロータリーソング それでこそ

- ロータリー
- ・ビジター 佐々木敏郎さん(盛岡西 R.C.)
- ・会長報告 飯塚 肇会長
- ・功労者表彰 田中堯史会員 ロータリー財団マルチプルフェロー(8 回)
- ・皆出席バッチ 橋本孝史君(3 年)。

- ・入会祝 橋本孝史君。
- ・幹事報告 星 克彦幹事

●メークアップ

仙台宮城野 R.C.= 橋本君。久慈 R.C.= 作田君。盛岡西 R.C.= 伴君。クラブ委員会= 藤田・畠山・金沢・勝・近藤・佐藤(重)・海野君。

出席報告

会員数/75名

出席数/42名

出席率/58.9%

前々回/85.14%

プログラムのお知らせ

- ・2月 23 日(金) 創立記念例会・卓話 佐藤義正会員
- ・3月 1 日(木) 会員卓話(夜例会)金子真也会員
- 9 日(金) 会員卓話 熊谷隆司会員
- 16 日(金) 環境保全ポスター表彰式
- 23 日(金) 特別休会
- 30 日(金) 会員卓話 阿部 広会員



●本号編集担当 / 作田 尋